

株式運用グループのESGインテグレーション

成長性評価とバリュエーション評価を強化するESGの評価

ESG評価の基本的な考え方

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、不可逆的な社会の変化が加速するとともに、様々な社会的課題が浮き彫りとなりました。今や、世界的に株式の運用においてESGを考慮することは、中長期的に企業を評価する上で非常に重要な要素となっています。その中で、私たちは国内株式アクティブ運用においては、ESGを考慮する上で二つの視点を重視しています。

一つ目は、成長性評価の視点です。世界中で長期間にわたり大規模な金融緩和を行っても、総需要の伸びが十分には感じられないという事実は、これまでのやり方ではもはや成長は望めないということを示しているように思われます。また、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新しい社会・経済の構築といった観点でも、現在の社会的な課題を解決する新しいビジネスモデルの構築が求められており、そうした成長機会の追求といった観点でもESGやSDGsの考え方は大変重要です。

二つ目は、バリュエーション(割安度)評価の視点です。急激な気候変動や、資源・廃棄物などの環境問題、新型コロナウイルスの世界的な感染が浮き彫りにした格差等の社会的な問題が、サステナビリティという観点で差し迫った問題になっており、ESGに関連するリスクのマネジメントが極めて重要なテーマとなっています。リスクが高いと判断された企業は中長期的な企業価値の確信度が低下し、バリュエーションを評価する上でマイナスに影響します。

私たちは、これらの課題への対応状況や企業価値への影響を考慮し、当社独自のESG評価を行っています。当社では、お客さまの中長期的な資産形成に貢献すべく様々な運用戦略を揃えていますが、成長性や割安度を評価する全ての戦略において企業のESGに対する取組みを評価することは非常に重要であると考えています。



ESG評価を投資判断プロセスに組み込んでいます

一般的なESG評価では、主にESG課題のビジネスリスクに対する評価に重点が置かれている場合が多い一方、当社ではESG課題の解決に貢献できるビジネスモデルは今後安定的に成長が見込める有望な事業機会と捉えており、ESG課題に関する調査においてはビジネスリスクだけでなく、事業機会も重視しています。

企業のESG評価を行う際には、そのビジネスモデルに関係する重要なESG課題(マテリアリティ)を特定することが重要です。例えば自動車メーカーにとっては気候変動が重要な課題である一方、コンビニエンスストア等のフランチャイズチェーンにとっては、ヒューマンキャピタルマネジメントが重要な課題となります。

気候変動や格差問題、廃棄物処理等のESG問題は複数の業種に関係するケースが多く、外部シンクタンクと連携しつつ、ESGアナリスト・株式アナリストが業種横断で協働してESG課題の現状や見通し、解決策についての調査を行っています。

重要なESG課題は様々な業種に影響を及ぼしますが、影響の大きさや時間軸は業種ごとに異なります。例えば、気候変動問題に関しては電力業界では2030年までに低効率な石炭発電所の順次廃止が検討されており、その対応が迫られています。他方、自動

(業種ごとのマテリアリティの事例)

	気候変動	サーキュラーエコノミー	ヒューマンキャピタルマネジメント	地方創生	取締役会の実効性
完成車	○				○
石油・鉱業	○	○			○
フランチャイズチェーン			○	○	○
電鉄			○	○	○
食品		○			○

車業界では欧州で2020年から二酸化炭素排出規制が厳格化され、今後更なる規制強化が予定されていることから、その対応は喫緊の課題となっています。

個別企業のESG評価にあたっては、当社アクティブ運用の強みである、経験豊富な株式アナリストとESGアナリストによる国内最大級のリサーチ体制を活用しています。アナリストは企業との面談を通じ、ビジネスそのものの競争力や課題を評価するとともに、環境・社会・ガバナンスにおける課題についても共有し、企業価値向上に向けたエンゲージメントを行っています。業界や個別企業の置かれた状況によって課題(マテリアリティ)が異なると考えており、それぞれの課題への対応状況を分析することがESG評価を行う上で重要と考えています。

私たちは、当社アナリストによる詳細な調査分析に基づいた独自のESG評価を行い、成長性評価に役立てるとともに、リスク要因について各戦略に応じた活用を行うことで、お客様の中長期的な資産形成に貢献できると考えています。なお、今後独自のESG評価をベースとしたアクティブ戦略の構築も検討していきます。

国内株式アクティブ運用におけるESG評価の流れ

